

## 平成 19 年度研究の反省

「社会を見る確かな目を育てる子どもの育成」を主題とした研究がまとめの年をむかえた。2期4年にわたり、この主題で研究を進めてきた。江別集会は、過去3年間の研究の成果を確かなものとするための大切な場であった。

今年度の二次集会では、江社研が、『身につけさせたい力を意識した授業づくり』を重点に実践検証を行った。特に、児童に身につけさせたい力を明確にした教材づくりと、思考判断力を高める発問づくりの2点へこだわった取り組みである。

江社研の授業実践から研究の成果をまとめると、次の3つがあげられる。

1つ目は、教材の開発についてである。地域素材への教師の思いが先行し、身につけさせるべき力とのギャップが毎年のように課題としてあげられた。そこで、江社研では、「児童に身につけさせたい力」を目標や児童の実態などから明確にし、教材づくりに生かしていった。その結果、社会的事象に対する知的好奇心を高め、社会的なものの見方・考え方を身につける教材を開発することができたのではないだろうか。

2つ目は、発問についてである。発問は、子どもの思考を活発にさせながら、目標に向かって焦点化・深化する機能をもっている。豊かな内容を持った教材を準備し、子どもの思考を発展させ、多様な追究を引き出す資料を準備したとしても、それらを結びつけるのは発問である。江社研では、発問検討シートを作成するなど、発問を授業づくりの中核に据えた。そのことで、「児童に身につけさせたい力」がより具体的になり、子どもたちの追求意欲を高めることに結びついたのではないだろうか。

3つ目は、学習展開の工夫についてである。どの学年の授業にも、「見えたもの（事実）から見えないもの（社会の本質）」を考える手立てが工夫されていた。グラフ・写真・地図・ビデオなどにひと工夫した資料を準備したり、ゲストティーチャーを有効に活用したりしている。子どもたちが社会的事象の意味や働き、特色に迫るための大切なポイントといえる。

以上のようなことから今年度の江別集会は、子どもたちに、「社会を見る確かな目」が確実に育っているという姿を見取ることができた、実り多い集会であったといえる。

他の市町村に目を向けても同じような成果をあげることができる。このことは、各市町村が独自に研究・実践を深めながらも、同じ方向を向いて研究が進んできた大きな証拠であろう。市町村ごとにそれぞれの副主題を掲げ、独自の切り口で石社研の研究主題に迫る、市町村の独自性を意識した取り組みが大きな成果を生んだといえる。

あえてこの研究で課題をあげるとすると、単元を見通して指導プランを具体化していく力と目標を確実に、そして、豊かに実現していく授業の工夫であろう。どちらも個人の指導技術の向上にかかわることであるが、同市町村の部会員の仲間と議論しながら深めていきたいテーマである。

これまで、中心グループでの実践検証・各市町村での授業実践から研究の成果と課題をまとめてきた。それを引き継ぎながら進められてきた4年間の大きな成果を礎に、次年度からの新研究を立ち上げる。今後も、各市町村推進委員と連携を深め、すべての部会員の皆様が、共通理解に立って実践検証できるように研究推進していきたい。